

# 科目区分：人間科学科目

授業科目名	生体の機能（歯科臨床の新展開）					学期	曜日	校時
英語名	Basic Human Physiology (New trend in Clinical Dentistry)							
担当 教員名	久保 至誠 吉田 圭一 丸山 陽市	単位数	2単位	必修 選択	選 択	後期	火曜日	4校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>歯科治療に対しては痛い、怖いといった好ましくないイメージが定着している。しかし、患者と医療者が対等の立場でより良い人間関係を築きあげながら治療を進めるように医療全般が移行してきているなか、歯科医療もより快適で安心なものを目指して急速に変化している。歯科臨床の新展開や傾向を概説することで、歯科医療に対するイメージを改善するだけでなく、医療ならびに健康に関する関心を高め、行動を変容できるようにする。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
教科書は使用しない。授業計画に沿ったプリント等を配布し、スライドなどを利用して分かりやすく講義する。								
対象学生	成績評価の方法					教員研究室		
全学部	授業への参加状況（30％）小テスト（20％）レポート（20％）および授業時の総合評価（30％）							
授 業 計 画								
<p>1. 第1回 - 第5回 最近の歯科医療全般の変化と虫歯、歯周病の予防・治療について（担当：医学部・歯学部附属病院臨床教育・研修センター 久保至誠）（講義時間以外は、メールによる質問受付のみ可：kubo@net.nagasaki-u.ac.jp）          先ず、最近の医療全般の変化について概説する。現在の虫歯治療は削って詰めるという対症療法から脱却し、予防や痛くないMID（Minimal Intervention Dentistry）に移行している。以後、このようなことが可能となった研究の成果とその背景を分かりやすく解説する。歯周病の治療は患者と歯科医療者の共同作業であり、良好な人間関係の構築が成功の鍵となる。医療者が患者から信頼、信用されるためには何が必要かをグループ討議し、その成果を発表する。</p> <p>2. 第6回 - 第9回 人工物でできた歯による機能性と審美性回復について（担当：医学部・歯学部附属病院 総合歯科 入れ歯・そしゃく治療室 吉田圭一）（連絡先：keiichi@net.nagasaki-u.ac.jp）          虫歯によって歯が欠けるとそこを削って冠をかぶせ、また歯槽膿漏で歯を抜いてしまうと抜けた歯の両隣の歯を削りそれを土台にしたブリッジという人工物で作られた歯を入れることになる。このようにして噛めるという機能を回復する人工の歯を作製するための手順を、実際の歯科治療の症例を交えて解説する。また、白くて綺麗な歯にする審美歯科治療の具体的な診療方法を、既に出来上がったセラミックスブロックを機械で切削して歯の形を作り上げる（CAD/CAM）最新の歯科治療法も含め解説する。さらに、実際の歯科材料を扱ってもらう体験や、義歯の洗浄剤に应用されている光触媒に関する簡単な実験も予定している。</p> <p>3. 第10回 - 第13回 歯並び、噛み合わせ、審美歯科の治療について（担当：歯学部附属病院 歯並び・噛み合わせ治療室 丸山陽市）（連絡先：ymaru@net.nagasaki-u.ac.jp）          歯並びや噛み合わせに問題があれば、咀嚼能率、消化、発音、顎関節、発音などへ悪影響が及ぶと言われているが、現代社会の成熟に伴う審美的な要求度の高まりに応じて歯並びの審美的な回復も重要視されている。歯並びや噛み合わせ、審美性の回復に用いられる歯列矯正について、最新の生体に優しい矯正材料や目立たない治療法を中心に解説を行う。さらに歯列矯正だけでなく、歯の漂白や歯の形態修復も踏まえた包括的な審美歯科治療についてもわかりやすく解説を行う。さらに、顔や口元の美しさに関してグループ討議し、その結果についてプレゼンテーションを行う。</p>								
<p>（予習・復習に関する指示）          本講義では、予習の必要はなく、授業においては素直な意見と疑問点を述べる事が重要である。復習というよりも、各講義後に受講生同士での活発な議論を期待している。</p>								
<p>オフィスアワー（質問受付時間）：久保の場合、講義時間以外はメール（既述）による質問にのみ応じる。吉田の場合、月～金 16：00～18：00 教員研究室。丸山の場合、火曜日 15：00～17：00 教員研究室</p>								